

学校教育目標	よりよい自分になる ～子供たちの「よくなるうと」する力を引き出す～
育成を目指す資質・能力	9年間を見通した児童生徒の「自己表現力」の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 大分県の平均点を上回る教科がほとんどであるが、問題の意味を理解し、自分の考えが伝わるように表現を工夫して書く問題で正答率が低い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 自分の意見や考えを条件に従って書いて表現したり、説明したりする問いに対して無解答の割合が高い傾向にある。また全教科を通して、問題や資料を深く読み取る力が不足している。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 学校評価では、「授業がわかりやすく楽しい」と感じる児童生徒は85%であり、「授業の中でノートに自分の思いや考えを書いたり、発表したりして伝えることができている」と答える児童生徒は77%であった。表現に向かうための個の考えのもたせ方、ヒントの与え方等については課題が残り、さらにきめ細かな指導の工夫が求められる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・各種学力調査の結果を分析して本校の課題を見つけ、課題克服につながる授業改善に取り組んでいる。 ・新大分スタンダードを意識した授業構想、単元に一回以上その時間に付けたい力に迫る「対話」を位置付けた授業を行っている。 ・プレテストや小テスト、単元テスト等を実施し、基礎基本の学力の定着を図っている。 ・「授業がわかる・楽しいと子供が感じる工夫や手立てを行っている」に対して100%の教職員が肯定的な回答をしたが、「授業がわかりやすく楽しい」と感じている児童生徒は85%であり、認識の差がある。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・1年生から外国語科の学習に取り組んでいる。・7年生外国語科への小中教員乗り入れ授業を実施している。 ・生徒指導の3機能を意識した授業を心掛けている。 ・3～6年生(理科、音楽、英語、社会、図工、家庭科)で交換授業や教科担任制を実施している。 ・学習委員会の活動と連携し、学習5原則の徹底に努めている。	

学力に関する達成指標

- 国語・算数の単元末テスト(1～6年)80点以上の児童80%以上、60点未満の児童5%未満、学力診断テスト(7～9年)70点以上の生徒50%以上、50%未満の生徒25%未満。
- 「授業がわかりやすく楽しい」と答える児童生徒85%以上。

	【授業改善】	【家庭との協働】
今後の具体的な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 ○9年間を見通した児童生徒の「自己表現力」の育成 〈授業改善の重点〉 ①一人一人が自分の考えをもつことができるような課題設定 ②児童生徒の活動や表現する場を重視した授業の実施 ③表現活動を可能にする共感的人間関係の育成	〈学びに向かう姿勢の習慣化を目指し家庭学習の充実を図るための連携・協働〉 ○「家庭学習の手引き」を発行し、周知活用を努めている (昨年度の内容を見直し改訂) ・小学校低・中・高、中学校に応じた、家庭での学習時間の提示 ・学年段階に応じた自主学習の運用例 ・筆箱の中身の統一 ・具体的な「生活習慣づくり」「学習環境作り」の勧め
	〈取組内容〉 ○各学年の実態に応じた課題解決を目指す授業において、自分の考えや思いを表現できる場を設定する。	○保護者による授業サポート(小学校) ・家庭科の実習補助 ・読み聞かせ(1～4年生)
	〈取組指標〉 ○前期・中期・後期ごとに定期的に児童生徒の学習の状況を共有、振り返りをし、改善に向けた授業づくりに努めている。	○家庭学習支援(小学校) ・保護者による音読チェック ・算数の問題、漢字練習のまる付け等
	〈検証指標〉 ○「授業がわかりやすく楽しい」と答える児童生徒が85%以上。 ○「授業の中でノートに自分の思いや考えを書いたり、発表したりして伝えることができている」と答える児童生徒が80%以上。	
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○管理職の授業観察による指導・改善 ○小学校中高学年での教科担任制の推進及び小中教員による乗り入れ授業の実施 ○校内研究と連携した生徒指導の3機能を意識した自己存在感を与える授業、共感的人間関係をはぐくむ授業の研究	